

令和2年度第2回高知市環境審議会 会議録（要旨）

1 日時 令和3年1月19日（火）10:00～12:00

2 場所 高知市本庁舎6階 612・613 大会議室

3 出席者

〔委員〕※敬称略

川田勲（会長）、松本明、安部順子、池田康友、岡林南洋、須内宗一、田中佐和子、長尾達雄、中田陽子、堀澤栄

—以上、委員10名出席で審議会成立—

（欠席＝北山めぐみ、徳増延行、豊永大五、松本伸介）

〔事務局〕

環境部：今西部長、石黒副部長

環境政策課：児玉課長、福富課長補佐、徳能係長、林主事

新エネルギー推進課：宮本課長、宮川係長、片岡主査補

〔庁内出席者〕

財産政策課 西川課長、暮らし・交通安全課 前田課長、農林水産課 島崎課長、

鏡地域振興課 川上課長、都市計画課 山本課長、みどり課 畑山課長、

清掃工場 戸梶工場長

〔委託業者〕

エヌエス環境株式会社 3名（うち2名はWeb会議システムによる出席）

4 議題

(1) 第2次高知市地球温暖化対策地域推進実行計画（区域施策編）の改訂について

(2) 第二次高知市環境基本計画の施策評価について

5 配布資料

(1) 会次第

(2) 高知市環境審議会委員名簿

(3) 資料1 第2次高知市地球温暖化対策地域推進実行計画（区域施策編）改訂案
（たたき台）

(4) 資料2 修正意見対応表

- (5) 資料3 温室効果ガス排出量の実績値及び削減目標値の変更について
- (6) 資料4 第二次高知市環境基本計画の施策評価について
- (7) 資料5 -第二次高知市環境基本計画- 施策の取組状況の点検・評価
- (8) 資料6 第二次高知市環境基本計画施策一覧
- (9) 当日差替資料（資料1 31-32頁・37-38頁，資料3）

6 審議内容

議題(1) 第2次高知市地球温暖化対策地域推進実行計画（区域施策編）の改訂について（資料1～資料3）

委員： 資料3の目標数値の変更については、より積極的な数値となっており良いと思うが、変更理由として、原子力発電活用の可能性について記載することについては、配慮が必要ではないか。

資料2について、市民・事業者の取組として「再生可能エネルギー由来の電力の調達に努めます」という表記が追加されているが、この「調達」は需要サイドの「使用」を指しているということによいか。表現の仕方を検討してほしい。

事務局： いただいた意見について、検討する。

委員： 第5章54頁の市民の取組の公共交通機関の積極的な利用について、とさでん交通では様々なサービスを実施している。より多くの方に知ってもらうためにはもっとPRが必要だと思うので、市からも働きかけてもらいたいと思う。

くらし・交通安全課： 公共交通の利用促進に向けたサービスが市民に浸透するよう、事業者と連携し、公共交通のPRに努めていきたい。

委員： この計画は市民全体で取り組んでいく内容であるため、分かりやすく書くべきだと思う。専門的な用語についてのコラムがどこにあるか、頁数を記載するなどの工夫をしてはどうか。

事務局： 資料編の用語集も含めて、用語についての説明をどこに掲載しているか分かるよう工夫する。

委員： 第5章49頁の市民の取組と事業者の取組で「環境性能に優れた自動車を選択します」と記載しているので、公用車についても、電気自動車等の次世代自動車の導入を積極的に検討してもらいたい。

事務局： 市が率先して導入していきたいという思いはあるが、コスト等の課題があり、進んでいない状況である。

また、自動車メーカーから、寄贈やリースによる災害時の利用を見据え

た電気自動車の導入について提案を受けている。そういったことも踏まえ、検討していく。

委員： 45 頁の①新エネルギーの導入で「積極的に導入を検討します」と記載しているが、「取り組む」という表現にはできないのか。

事務局： 経済的にすぐに取り組むことが難しいものについては、「検討する」という表現にしているので、ご理解いただきたい。

委員： 市民・事業者にも新エネルギーの導入を要請していくのであれば、予算の関係もあると思うが、市でも積極的に取り組んでもらいたい。

事務局： 市役所は市域の中で 2 番目に温室効果ガスの排出量が多い事業所となっている。来年度策定する市役所内の地球温暖化対策の計画において、市で実施可能なものについて取組を進めていく。

委員： 第 5 章の進行管理指標で、目標年度のほとんどが令和 12 (2030) 年度だが、令和 6 (2024) 年度や令和 8 (2026) 年度のものもある。また、現行の計画では、短期目標を設定していたが、今回の改訂案では設定されていない。目標年度の設定における考え方を教えてもらいたい。

事務局： 国の計画において、令和 12 (2030) 年度までの数値目標を定めているため、それに足並みを揃える形で、令和 12 (2030) 年度を中期目標期間として設定している。今後 10 年間の中で、国で大きな見直し等があれば、適宜改訂をしたいと考えている。

進行管理指標の目標年度については、第 1 章 3 頁の「計画の位置付け」の図中の「温対法第 21 条第 3 項及び第 4 項に示される関連する本市の計画」に記載する指標から抜粋したものを進行管理指標としており、これらの指標のうち、令和 12 (2030) 年度内で計画期間が終了するものについては、その年度を目標年度としている。

今後は、毎年度環境審議会に進捗状況の報告を行い、関連する計画の更新と併せて、指標の目標値についても見直しを行う。

委員： 第 5 章第 2 節の具体的な取組において、子ども達へ向けた環境学習について記載してはどうか。

事務局： 環境学習については、大切な取組であると考えており、今年度は、新型コロナウイルスの影響で環境学習を中止しているが、今後は毎年度実施していきたいと考えている。市民の取組と事業者の取組に文言を追加する等、見せ方を工夫する。

委員： この計画の活用方法について教えてもらいたい。

事務局： 計画の内容を広く市民に知ってもらい、一緒に取組を進めていきたいと考えている。分量が多いため、概要版を作成し、配布やホームページでの周知を行っていく。また、環境学習の際には、計画を一部抜粋して活用したいと考えている。

委員： 具体的にどのような取組が数値目標の達成に繋がるのか、また地球環境を改善していくために、市民が日常生活でどのような取組をしていけば良いのかを整理すると、より分かりやすくなると思う。子ども達の興味を引くキャンペーン名称やキャッチフレーズにする等、自分事として捉えられるような見せ方にするとう効果的ではないか。

レジ袋有料化のように、法制化されると事業者としても取組を進めやすい。高知市でも、「検討する」「努力する」ではなく、条例で決めてもらえたらと思う。また、市民と事業者にとってどのようなメリットがあるかも伝えてもらいたい。

事務局： 構成に関しては、改訂案を大きく変更することは難しいため、概要版を作成する際には、市民の皆様にごどのような取組をしていただきたいのかが分かりやすい内容にしていきたい。

また、法制化が必要と思われるものについては、国へ意見を出していきたいと考えている。脱炭素は、オールジャパンで、世界全体で取り組んでいく課題である。国では、脱炭素実現に向けた取組をまとめた行程表を作成しており、6月頃の策定を目指している。そうした流れに合わせて、家庭での取組等も含めて計画を推進していく。

委員： 計画の内容が少し難しく、ハイテクを重視しているように感じる。温室効果ガス排出量削減の余地があるところは、各家庭や小規模な事業者だと思があるので、概要版を作成する際には、そういった方々の取組の方を重視してはどうか。

事務局： 検討し、修正していきたい。

委員： 第7章70頁の「外部組織との連携」について、町内会連合会をはじめとする地域活動団体と連携を図っていく旨の記載を加えていただきたい。

事務局： 書き加える。

委員： 進行管理の中で、SDGsとの整合性を図っていくことを追記してはどうか。温室効果ガス排出量の進行管理については、人口減少や電力の排出係数の変更による削減量だけではなく、人口一人あたりの削減量について

も分析する等、高知市での取組状況を踏まえた進捗管理を行うということ
を記載すると、振り返りの際にも説明がしやすいのではないかと。

第5章に記載されている進行管理指標については、状況に応じて見直す
場合があることや、進行管理指標として示していない数値についても、進
捗管理を行っていくことが分かるような表現があると良いと思う。

第6章では、市民と事業者が取り組むべき行動の指針を示しているので、
市としては、情報提供等の支援を行うということが記載されていると良い
と思う。

資料3について、排出量実績値も変わっているのは、電力排出係数の変
更に伴うものか。

事務局： 国の統計資料の公表値の変更に伴い、排出量実績値も再度算定した。

会長： 本日委員から出された意見をもとに、事務局に改訂案を修正してもらい、
修正後の確認については私と事務局にご一任いただくことでご了承いた
だきたいと思うがよろしいか。

委員一同： （異議なし）

議題(2) 第二次高知市環境基本計画の施策評価について

委員： 次期計画期間内に、SDGsの目標年度である2030年度を含むため、
各施策とSDGsとの関係性を整理してはどうか。また、評価を行う際
には、様々な状況変化を考慮し、当初設定した数値目標の妥当性を確認す
ることが必要であると思う。資料5の(3)と(4)の間に、どのような状況の変
化があったかを記載すると良いのではないかと。

指標については、中身の説明はあるが、例えばアユの生息数という指標
は、数そのものも重要だが、生育環境の保全という趣旨があると思うので、
指標の見直しに当たっては、位置付けの説明も良いと思う。

委員： 関連する計画や審議会があるものに関しては、本審議会での評価方法を
簡素化すると効率が良いのではないかと。

事務局： いただいた意見をもとに、様式の見直しを検討する等、評価へ向けた準
備を進めていく。